

奈良保育学院附属幼稚園・自己評価結果公表シート

作成：奈良保育学院附属幼稚園 園長 徳永明子

<1> 本園の教育目標

「あしたが待ちどおしくなる幼稚園」を目標とする。

「体力向上」を目指して心身ともに健康な身体づくりをするとともに、豊かな心と自立できる力を育む。

幼稚園集団生活の中で、あいさつのできる子、決まりの守れる子等、幼児期の「躰」を十分に行い豊かな情緒の安定を図る。

子ども達に、いろいろな体験をさせ団体生活を軸に規律と調和のとれた生活を通して、園児の感受性を大きく成長させる。

教職員と園児が生活を共にすることで愛情を持って園児たちと接することにより、園児と人間関係を築き困難を成し遂げる気持ちを育てる。

<2> 本年度の重点目標

- ・保育の特色

園児の体力向上を目指し外部講師による専門指導のカリキュラムのもとに運動能力を高める。

◎安全に行動できる健康な体と運動能力を育てる。

- ・基本的な生活習慣と健康な生活リズムが身につくように援助する。
- ・喜んで体を動かしたり、いろいろな運動を楽しんだりするような環境構成や援助を工夫する。
- ・専門指導のカリキュラムのもとに運動能力を高める。

◎思いやりの心を持ったり生命の大切さに気付いたりするような働きかけをする。

- ・生活の中での決まりを守ることに気付いたりするような働きかけをする。
- ・友だちやまわりの人たちなどのかかわりを通して、自分や相手の良さに気付いたり安心したり思いやりの心が育つように援助する。
- ・身近な四季おりおりの花や生物に触れる機会をつくり感動体験を持ったり命の大切さに気付いたりできるようにする。

◎子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもたちがさまざまな表現を楽しむ事ができるように配慮する。

◎幼児の健康で安全な生活を支えあう家庭、地域、小学校、特別支援関係機関との

連携を考える。

・健康な体づくりや安全に対する保護者の意識を高めるような援助をくふうする。

◎親子で共通体験をしたり地域の人たちと触れ合い親しみを持ったりするような機会をつくる。

◎幼小連絡会や特別支援関係との連携を持ち、共通理解のもとに教育を進める。

<3> 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関して教職員間の共通理解をはかる。	本年度は園長、教頭を始め4年以上の経験者が多く再度本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく必要がある。教頭、及びリーダーを中心に指導計画や記録の作成、保育の実践指導等を行う。 職員会議や話し合いの時間を持ちながら全教職員が一致協力して、望ましい連携体制が取れるように考える。
幼稚園の状況をふまえて中、長期的なビジョンと計画を策定する	学園全体で「120年ビジョン」の目標に向かって幼稚園に求められるニーズに答えられるよう今年度が仕上げの年となっておりすべての項目を改めて年度はじめに再確認し自己目標をしっかりと持って目標に向かって保育する事ができた。
教育の質の向上のため園内、園外研修を充実させる	本園教員の資質向上のため全国私立幼稚園協会、奈良県私立幼稚園連合会、奈良市私立幼稚園協会主催の研究会、宿泊研修会、近研大会に参加し、また奈良市公私立幼稚園協会主催の研修会にも定期的に参加し、夏休みを利用してはサマースクール等各自が進んで学びたい研修会に参加している。園内では、日々の子どもの姿について話し合う機会を職員会議や朝礼、終礼等で持つようにし日々の保育の見直しを行う。 ・マイスター研修を年5回行う（外部講師3回、教諭2回） ・特別支援研修の継続（学期ごとに外部講師を招いて3回）
保護者のニーズの把握につとめ、幼児期の育ちにふさわしい環境を浸透させる。	保護者との懇談を定期的実施するとともに行事等についてアンケートを実施。 出された意見に対して必要なものについては園の考え方を示し改善すべきものは改善するように取り組んでいる。花プロジェクトの取り組みの中で園児もプランター植えに参加し植物の生命にも触れ感性が豊かになるようにしている。

安全環境の充実に努め園内の環境整備を行う	園内行事、日々の保育活動の施設の使用には徹底した衛生安全はもとより、園庭の整備、遊具等安全確認を毎日行い園児たちの遊具の使用には万全の目配りをしている。
預かり保育や子育て支援活動の推進に努める。	急速な高齢化と少子化が進行するだけでなく、社会構造が著しく変動する中で子育て支援として預かり保育を継続する必要がある。保護者の協力を得ながら早朝保育、延長保育の他、春休み、夏休み、冬休みも家庭の事情を考慮して長期預かり保育を実施する。尚、延長保育の担当がクラス担任のローテーションで行っているため、行事前は開くことができず対策として、来年度から預かり専門の先生を確保する。 白藤アカデミー「やわらぎ子育てふれあいサロン」とは「もう悩まないともに学ぶ子育て講座」をテーマとし、孤立化している子育ての現状の中で、保護者が持つ不安感や負担感を少しでも軽減していけたらと考えています。また、子育ての中の親子が気軽に集い相互の交流や不安・悩みを相談できる場としていきたいと思い今年度は年4回計画していたがインフルエンザ流行の為、1月19日中止とし今年度は、3回実施した。(5月19日、8月25日、9月29日)

<4> 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し取り組み状況を話し本園としての方針を明確にすることができ、それを実施する礎とすることができた。

<5> 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理の強化と緊急・災害時の安全確保	避難訓練は今年度は月に1回実施した。色々な災害を想定し集会の場で知らせたり実際にみんなで避難の行動をとり日常から意識づける。 不審者情報が県や警察から随時提供されるので、それに対して施設面での対応や教員の意識づけの向上をはかる。また本園の法人関係者と教職員との連携力を高め危機に対し危機対策マニュアルを随時見直し適切な対策を取れるようにする。非常時に備えて個人用の非常食を確保した。(アレルギー一用も確保した。)安全管理の為二重扉工事完了(5月)
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討するとともに発達障害(行動や感情をうまくコントロールできない、不注

	<p>意で日常生活の基本的な生活習慣が身につかない)等の疑いのある幼児についての支援や保育のあり方について講師を招いて年間3回の研修を積み学ぶ。自立の遅れ、ことばの遅れ、コミュニケーション力等に関する理解を深め適切なアドバイスができるよう学習する。</p>
<p>情報の発信や広報活動の見直しと刷新</p>	<p>ホームページを開設したことにより園の特色、教育方針、保育活動、行事等の最新の情報を発信できるようになった。広報活動の面でも大きな力となっているので、今年度は、行事毎にかかりを決めて発信した。個人情報保護の重要性を理解してもらいさらに積極的に取り組んでいきたい。</p>
<p>地域との関わりについて 地域との共生、地域に根ざした学園 ・白藤アカデミー事業</p> <p>・大宮子育てフェスティバルに参加 ・「赤い羽根共同募金」</p> <p>・地域の介護老人福祉施設慰問</p>	<p>白藤アカデミー「やわらぎ子育てふれあいサロン」テーマ“もう悩まない共に学ぶ子育て講座”を実施する。</p> <p>「やわらぎ子育てふれあいサロン」の立ち上げ。年4回計画していたが、4回目計画していた1月19日はインフルエンザ流行の為中止した。したがって今年度は、次の年3回実施した。(1回目、5月19日・・・20家族)(2回目、8月25日・・・40名)(3回目、9月29日・・・21名)、講師・高橋晴子氏、栗栖耕子氏、葦石佐知子氏、逸崎満里子し、井上依子氏、5人によるくどんぐり COROCORO>愉快的な5人組。</p> <p>“子どもから大人までが楽しめるお話し会”を子育てに悩む地域の若い母親を対象としてスキンシップの大切さ親子でふれあう楽しさやうれしさを講師と共に体験しながら母親としての不安を自信に変える講座を立ち上げる。悩み相談も実施している。</p> <p><人形劇団「マリオネット&ミュージック」>ボランティアグループ代表近田光男氏と7人の仲間による曲に合わせたマリオネットの創作ミュージカルを公演してもらった。</p> <p>「ピョピョランド」に参加。今年度は掲示のみ。</p> <p>・社会福祉協議会の協力を得てJR奈良駅にて月組23名が募金活動に参加した。</p> <p>来年度も継続予定</p> <p>・年長組23名が、介護老人福祉施設「桜の里」を慰問する。ダンス、歌等披露し喜んでもらった。</p>

園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った私学の独自性に充分配慮しつつ子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで本園のビジョンを策定する基礎とする。アンケートの実施・・・結果89%以上の保護者に満足してもらっていた。
-----------------	--

<6> 学校関係者の評価

特に指摘すべき項目はなく妥当であると認められる。

<7> 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。